

全国的にベビーシッターの 需要が拡大しています



女性が出産後も仕事を続けてキャリアを磨きたいと考えた時には、子どもを安心して預けられる環境を整えることが必要です。近頃では官民多主体から多様な保育サービスが提供されています。中でも、病児保育や家事などオーダーメイドが可能なベビーシッターの存在は、テレビドラマや様々なメディアで取り上げられ認知度が高まっています。当窓口への問い合わせも増えていることから、県内で活躍中のベビーシッターさんに普段の仕事の様子を伺いました。

【インタビュー】



鎌田 まりさん

幼稚園教諭と自身の子育て経験を活かし、主婦として地域の子育て支援に関わり続けている。

Q. ベビーシッターになったきっかけと心に残った出来事を教えてください

A. 女性フォーラムなどの活動を通して、女性が社会で活躍できる社会づくりに興味がありました。長年学童での仕事をしていましたので、残業や出張、またお子様の病気などで苦勞なさいているお母様の姿を見ていました。本当はもっと根本的に子育てしやすい働き方ができる世の中になってくれるのが一番良いのですが、何かサポートして差し上げられることはないかと思いこのお仕事を始めました。

Q. お子様を預かる1日の大まかな流れを教えてください

A. 事前に登録という形でお子様の情報をお預かりさせていただき、必要な時に電話で予約していただきます。事前情報では保護者様が安心してお子様を預けられるように、普段の癖やアレルギーの有無等、さらに保護者様が望むことと望まないことまで詳細に伺っています。

当日の流れ 訪問→保護者からの引き継ぎ→保育→保育記録→保護者への報告→終了

Q. シッティング中、大切にしていること、心構えなどを教えてください

A. 安心・安全・誠意の3つは欠かせません。それと、お子様の成長を見守ること、促すことを大切にしています。お子様と過ごす時間がより豊かで、ゆったり楽しい時間であるように配慮していきたいと思えます。

Q. 保育以外にはどのようなサービスがありますか

A. 家事サポートがあります。シッティングは集団の保育などと違い個々のご希望に合わせて行うことができます。例えば料理の下ごしらえやお布団干しなどご相談に応じています。帰宅後の慌ただしさを減らすことで家族でゆっくりと過ごし、育児の幅を広げていただくと嬉しいです。

【ここが気になる】

安全なの？ …… ・ベビーシッター（会社・個人）は自治体への届け出義務があります（平成28年～）
・万が一の場合に備えて全国保育サービス協会の定める基準に沿った保険に加入しています。

料金が高そう … 各種助成制度があります。

- ・県内の医療機関向けに医師の子育てや働きやすい職場環境を整備した場合に予算の範囲内で助成金を交付します。「茨城県働きやすい職場環境づくり事業補助金」（医療人材課）
- ・厚生労働省の認めるベビーシッター会社と企業が契約をすると職員に割引チケットが提供できます。「ベビーシッター派遣事業」（内閣府）

【取材協力】

株式会社 ママ^{メイト}MATE (<http://www.mama-mate.jp>)

平成元年4月設立。本社は千葉県我孫子市。保育、介護事業を全国に展開。県南を中心にサービスを提供中で、筑波大学付属病院内の病児保育でシッター派遣システムが稼働中。平成29年4月に水戸支部（支部長：鎌田さん）を開設。県北地域に勤務する医師はもちろん、あらゆる世帯のライフサポートに期待したい。

ご相談・お問い合わせはこちらから



女性医師就業支援相談窓口ホームページ
<http://www.ibaraki.med.or.jp/women/>
茨城県医師会 女性医師就業支援相談窓口

☎ 029-241-7467

0120-107-467

☎ 029-241-7468

✉ i-dr.support@au.wakwak.com

